

第4回調整部会(8/28)における主な論点

1 「基本構想策定の背景」について

1 - (2) - の「埋没への懸念」に関して、

・区部の中心から東側の人口増加、小田急線や中央線の高架化、中野駅や立川駅等のまちづくりなどが進む中、このままでは杉並の吸引力が低下するのではないかとの懸念がある。

2 「新たな基本構想の理念」について

「区民の安全・安心を確保する」に関して、

・東日本大震災にかかわらず、住宅都市としての特性からも防災対策は重要なテーマである。
・杉並区は、環七沿いや阿佐ヶ谷から高円寺にかけ低層木造住宅密集地域の不燃化が進んでいないなどの危険性もある。東京全体の安全性向上のためにも、これを進める必要がある。
・安全・安心の問題は、各分野で共通する課題である。

「住宅都市『杉並』の価値を高める」に関して、

・杉並区は人口50万人の大都市として発展してきた。このことを踏まえ、新たな基本構想では、50万都市としてのモチベーションを持って、50万都市にふさわしいまちづくりをしていくべきである。

3 「杉並区の将来像と目標」について

「将来像」に関して、

・区民が共感して共有できるものとしてまとめていく必要がある。
・杉並のイメージは、「安全・安心」、「みどり」、「誰もが健やかに暮らす」、「活力ある50万都市」、「みんなで作る」など。
・「安全」は、「安全・安心」と表記すべきではないか。 将来像以外で「安全」としている箇所も同様。
・正確には人口約54万人であるが、「50万都市」という表現で良いか。

「目標」に関して、

・東日本大震災を踏まえ、目標の1番目にもっていくか、それとも独立した目標とせず、各分野の中で「防災・防犯」の要素を盛り込んで特徴付けるか。
・首都直下型地震に対して切実な覚悟が必要という意味では、1番目に据えるべきである。
・関連して、目標 ① では、大震災後の復興段階を視野に、どのようなまちをめざすのかというところが浮き彫りになるようなまとめ方ができれば良い。

4 「政策の基本的方向と戦略的・重点的な取組み」について

「災害に強く安全に暮らせるまち」に関して、

- ・木造密集地の不燃化に向けて、区が率先して少しでも空き地があれば不燃化のために計画的に公園として確保することが大切である。
- ・「倒さない、燃やさない」という視点が大切である。

「暮らしやすく快適で魅力あるまち」に関して、

- ・交通不便地域へのコミュニティタクシーなどの「ミニすぎ丸」の活用を図ってはどうか。
- ・自転車の交通安全やマナーの問題を考える必要がある。
- ・若者・現役世代への対応について、どのように触れるか。

「みどり豊かな環境にやさしいまち」に関して、

- ・みどりの確保のためには、地道に公園などの公的スペースを広げて、みどりを確保することが必要である。

「健康長寿と支えあいのまち」に関して、

- ・商店街での宅配サービスと連携した高齢者の安否確認などの新たな仕組みづくりが必要である。

「人を育み共につながる心豊かなまち」に関して、

- ・里親による児童虐待などへの対応として、総合計画では、里親に対するサポート体制にも触れられると良い。

5 「基本構想を実現するために」について

5 - (1)の「協働の地域社会づくり」に関して、

- ・協働は、全体を通じて基本構想を貫く考え方となっている。
- ・民間主体との連携についても上手く表現する必要がある。
- ・協働を謳うのであれば、基本構想の冊子を全戸配布するなど、積極的な区民への周知が必要ではないか。

5 - (2)の「これからの行財政運営」に関して、

- ・コミュニティバスによる区を超えた移動(例えば、三鷹台～吉祥寺)など、区境問題での隣接自治体との連携は、区民生活の質を高めるための重要課題の一つである。

5 - (3)の「区民と共に育てる基本構想」に関して、

- ・総合計画の進捗状況をあわせてチェックするシステムが求められる。
- ・基本構想づくりに携わった審議会委員が継続的に関与することが必要である。